

新たな家畜改良増殖目標（第11次）の検討状況について

－ 豚 －

現状と課題

- ・繁殖能力（産子数）は海外の豚改良先進国（デンマーク）より年間10頭程度少ない。遺伝率が低い繁殖形質の能力向上を効率的に進めるため、生産者のニーズを踏まえつつ、改良規模の拡大を図りながら遺伝的能力の向上を図ることが必要。
- ・雄系については、生産性に係る能力の向上を図るとともに、消費者のニーズに対応し、食味の面で海外産豚肉との差別化が図られるよう、肉質の更なる改良を進めることが重要。



新たな改良増殖目標(案)の策定に向けた主な方向性

【能力に関する目標】

- ・国際競争力のある豚肉を生産するため、純粋種豚の繁殖能力や産肉能力の向上を図り、低コストで特色ある豚肉生産に向けた改良を推進。
- ・現状値や目標値の設定の際に、遺伝的能力評価に利用した表型値データを使用するとともに、参考で遺伝的能力評価結果(育種価)も目標として記載。

① 繁殖能力

- ・産子数については引き続き向上を図るとともに、肢蹄の強健性等の種豚の生産持続性や産子の生存率等の向上に向けた飼養管理についても記述。

② 産肉能力

- ・目標設定にあたっては、1日平均増体量を向上させる一方、飼料要求率の向上及び背脂肪厚を薄くさせることは、肉質に影響を与える点を考慮する必要。

【能力向上に資する取組】

① 改良手法

- ・遺伝的能力評価の推進のため国産純粋種豚改良協議会等を活用し、種豚生産者間の連携・協業によって、より多く改良データを収集・評価し、評価結果を活用できる改良体制を構築。
- ・ゲノミック評価を活用した改良を進めるため、更にデータを蓄積。

② 衛生管理

- ・疾病の伝播リスクを低減させることは重要であるため、バイオセキュリティを確保するとともに、定期的な疾病モニタリングを実施。

③ おいしさに関する指標

- ・消費者に継続的に選択してもらえる国産豚肉生産のためには肉質も重要である事から、IMF（筋肉内脂肪含量）の重要性についても記述。
- ・簡易な方法で測定できる、おいしさに関する指標の開発の推進。

※ 今後、継続して意見を聴取する事項等

- 繁殖や産肉の「能力に関する目標数値」については、どの程度まで向上させるのか、また育種価の表記方法についても、更に検討が必要。